※カッコ内は演出的なもの。セリフとしては読まない

(A) leaf on the roof　スピンオフ　#3
「とばりのおく」

登場人物

灯（２２）　伸び悩みホスト
あかり（２２）　儚げな盲目少女
ヒカル（２４）　ナンバーワンホスト

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

○ホストクラブ「マジックアワー」（夜）
　繁華街。
灯（声）「ホストクラブ」
　「club magichour」の銀文字看板。
　×　×　×
　ロッカー。
灯（声）「街灯で群青に照らされた帳（とばり）の奥で 真っ赤な嘘をささやき合い その虚しさをピンクの泡で流し込む」
　シャツのボタンを留める灯の胸元。
　×　×　×
　フロア。
　グラスを煽る灯の口元。
灯（声）「金や物や人気の量で 互いにマウントを取りあって 人を見下して悦に入る そういう場所だ」
　シャンパンの零れる灯の口元。

○裏路地・ゴミ捨て場（明け方）
　嘔吐している灯の背中。
灯（声）「そういう。ゴミみたいな場所だ」
　灯、肩で息をしながら少し歩き、ゴミ袋の山に仰向けで倒れこむ。
灯（声）「オレがここに足を踏み入れて もうすぐ3年になる。もうすぐ。終わる」
　ヒカル、ペットボトルを差しだす。
ヒカル「上向くな灯。ゲロ詰まって死ぬぞ」
灯「すんませんヒカルさん。あざす（ペットボトルを受け取る）」
　ヒカル、空を見上げる。
ヒカル「ムカつくな」
灯「さーせん」
ヒカル「灯じゃねーよ」
灯「え。じゃあ（なんすか?）」
ヒカル「クソみたいな街のクソみたいな夜だったのに。ムカつく」
　灯、ヒカルにつられて空を見上げる。
灯「おお」
　赤、白、青。グラデーションの空。
　灯、空を見上げている。
ヒカル「(灯を見て）そろそろスーツ変えろよ。この仕事。ガワだぞ」
灯「いや金ねーんすよ」
ヒカル「女か」
灯「違いますよ」
ヒカル「じゃーなんだよ」
灯「ダチですよ地元の」
ヒカル「でも女だろ」
灯「でもダチっす」
ヒカル「へー」
灯「いや。病気なんすよ。目の。でも手術で治るヤツで。でも、あいつんチ金ないんで。可哀想じゃないすか。だから」
ヒカル「あー」
灯「だから手術代 貯めてて。あと生活費の足しにって毎月。カンパっていうか」
ヒカル「いいヤツだな」
灯「そんなんじゃないっす。ただ。あいつに見してやりたくて（朝焼けを示し）こういうの。こういう おおって思えるもの」

※カッコ内は演出的なもの。セリフとしては読まない

ヒカル「そのあとは？」
灯「え」
ヒカル「そのあとは、どうすんだ？」
灯「あー。とりあえず　この仕事は辞めるすかね。そこそこ稼げりゃいいんで」
ヒカル「そのあとも頑張りゃナンバーワンになれるかもしんねーぞ」
灯「なに言ってんすか。オレはヒカルさんみたいにはなれないっすよ」
ヒカル「今すぐはな。でも」
灯「いいっす　いいっす（慰めは）便所掃除行ってきます。これ（水）。あざす」
　灯、去る。
　ヒカル、灯の背中を見送る。

○風見銀行・ＡＴＭ窓口
　ＡＴＭから通帳が出てくる。
灯「（通話）ああ。おばさん。お久しぶりです。もうすぐそっち行くんで。はい」
　灯、通帳を取り金額を見て微笑む。

○同・外
　灯、好青年スタイルで出てくると、道路の向こうに目をやり、止まる。

○駅前ロータリー
　あかり、白杖を手に、立っている。

○風見銀行・外
　灯、あかりを見つめている。
灯「（今日行くってあかりは知らないはず。え。これ。運命とか的な？）」
　灯、微笑み、あかりに向かって歩きだそうとするが、止まり、真顔。

○駅前ロータリー
　あかり、顔を上げ、微笑む。
　男、あかりに駆け寄る。
　あかりと男、二、三言会話したあと、手を繋ぎ、歩いていく。

○風見銀行・外
　灯、あかりと男の背中を眺めている。
　歩いていくあかりと男。
　灯、二人の背中に微笑みかける。

○佐倉ハウス１０３号室・前（夕）
　木造アパート。
　灯、通帳を取り出すと郵便受けに差し込もうとする。
あかり（声）「トモくん？」
　あかり、立っている。
灯「おう。あかり。元気か？」
あかり「うん。どしたの？　家とか来て」
灯「あー。まぁ。その。ちょっと用があって　帰ってきてて」
あかり「そうなんだ」
灯「そう。そう。それだけ。じゃ」
あかり「トモくん。ちょっと歩かない？」
　あかり、微笑む。

○繁華街の裏道（夜）
　灯とあかり、歩いている。
あかり「よし。ここだ」
灯「ここ？　ここって。え？」
　ラブホテル「ピンク　パープル」前。
あかり「ずっと　お礼したいって思ってて」
灯「お礼？　お礼って」
あかり「お母さんから聞いてたから。毎月のお金のこととか。手術費用のこととか」
灯「それは。それはオレが勝手にやってることっていうか」
あかり「ありがとう。本当に。だから」
灯「いや。そういうつもりでやってたわけじゃねぇから」
あかり「じゃあ　どういうつもり？」
灯「その。いや。あかりは。大事なダチで」
あかり「うそばっかり」
灯「え」
あかり「トモくん。いたよね？　昼間。駅」

※カッコ内は演出的なもの。セリフとしては読まない

灯「え。どうして。いや」
あかり「わかるよ空気で。幼馴染みだもん」
灯「へー。あ。あー。バレてたかー。いやー。二人がいい感じだったから声掛けられなくてさー。ははは」
あかり「私ってあれでしょ？ ビジュいいってヤツなんでしょ？ わかんないけど。自分じゃ見えないし」
灯「え。あー。と」
あかり「みんなの感じでわかる。で。それって女の子として価値があるんでしょ？ だから灯はお金くれるんでしょ？」
灯「違ぇよ。そういうんじゃねぇ。あかりはオレのダチで。苦労も知ってるし」
あかり「だったら。こうしたら もっとお金くれるかなーって思って」
　あかり、灯の手を取り自分の胸元へ。
灯、手を払う。
灯「帰るわ」
　灯、歩き出す。
あかり「ねぇ。トモくん」
　灯、歩き続ける。
あかり「私。そんなに可哀想じゃないよ」
　灯、足を止める。
あかり「私。可哀想じゃないよ」
灯「（無意識にあかりを見下し悦に入っていた自分に気づき）あー（それを見透かされていた恥ずかしさに）あー（どこにもぶつけられない怒りに）あー！」
　灯、あかりの腕を取りホテルへ。

○ホテル「ピンク パープル」・外（明け方）

○同・５０４号室（明け方）
　あかり、ベッドで半身を起こすと手探りでバッグを取り、手を突っ込み、止め、取り出す。
帯封された万札の束が三つ。
あかり、スマホを取り出しかける。
あかり「あ。黒崎です。昨日はすみませんでした。急に駅まで来ていただいて。助かりました。はい。失礼します（終話）」
　あかり、うなだれる。
あかり「（今まで）ありがと。（最後。）ごめん。ごめん」
　あかり、シーツを握りしめ、嗚咽。

○裏路地・ゴミ捨て場（夕）
　マジックアワーが終わり、闇。

○ホストクラブ「マジックアワー」・フロア
　控室のドアが開く。
　ヒカル、振り返り、微笑む。
ヒカル「いいねぇ」
　灯、新品スーツにバキバキメイクでフロアを一瞥。
灯「あの。いかにも付き合いで初めてきた公務員って感じのカタそうな子。オレ食っちゃっていいすか？」
　灯、微笑む。

〈おわり〉